



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1 令和7年 賀詞交換会を開催

P2～P3 令和6年度地域ニューリーダー育成研修会を開催

P4～P5 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第4回

P6 都道府県技師会 各地での取り組み（栃木県編）

P7 高知大学医学部附属病院検査部公式YouTubeチャンネルにて日臨技制作動画を公開しています！

令和7年 賀詞交換会を開催

都市センターホテル3階「コスモスホールⅡ」において、令和7年日臨技賀詞交換会が開催されました。当日は国会議員1名、厚生労働省3名を含む招待者37名や賛助会員、都道府県会長、日本臨床検査技師連盟各役員等、総勢232名ほどのご参加を得て、盛大に開催されました。

冒頭、当会代表理事の西浦副会長の開会宣言後、横地会長の挨拶、厚生労働省を代表して武田豊氏、医療界を代表してチーム医療推進協議会の上田克彦代表、臨床検査関係を代表として日本臨床検査振興協議会の村上正巳理事長さらには日本病院会の相澤孝夫会長やご多忙の中でお越しいただいた中田宏参議院議員にご挨拶いただきました。引き続き、乾杯のご発声を日本

臨床検査医学会の大西宏明理事長にお務めいただいた後に、暫くの間ご歓談いただき、この間に国会議員の代理出席者の紹介、各御招待者のご紹介や祝電のご披露がされるなど、一同が和やかな雰囲気の中で出席者の交流が行われました。最後に中締めとして日本臨床検査薬協会の小野徳哉会長にお言葉をいただき、続いて当会代表理事竹浦副会長の閉会挨拶と、盛会のうちに閉会いたしました。

本事業は国政、行政、業界関係者が一堂に会する年次行事として定着しつつあり、次年度からも継続して実施する事業と考えております。

（専務理事 深澤 恵治）



横地会長 挨拶



中田 宏 参議院議員



武田豊
医療関連サービス室室長



会場の様子



上田 克彦
チーム医療推進協議会代表



村上 正巳
日本臨床検査振興協議会理事長



相澤 孝夫
日本病院会会長

令和6年度地域ニューリーダー育成研修会を開催

地域ニューリーダー育成研修会は、平成26年度より組織活性化及び組織強化事業の一環としてこれまで9回開催されてきました。7回までを第1期としており昨年より第2期として5年計画で実施しています。日臨技においてもさらなる組織の活性化と強化が必須であり、その一環として都道府県技師会において新たなリーダーの育成を目的としこの研修会を実施しています。この研修を、次の時代を担う技師の組織強化を図るための方策を考える機会とし、技師同志が交流を深めることにより、都道府県技師会間における情報共有や提供、連携の推進を図ることも目的の1つとしています。

第2期は5年計画として、始めの3年間は、当研修会を受講されていない各都道府県技師会より推薦された正会員を対象とし、4年目と5年目は、3年間で受講いただいた方々に再度受講いただきフォローアップ研修を実施する予定で計画しておりましたが、いったん今期をもってこの形式は終了とし、次年度検討を行い、新たな形で開催を検討することとなりました。

今年度は、日臨技システムによるオンデマンド研修と集合型研修のハイブリット研修会で開催しました。事前研修として、令和6年12月16日（月）～令和7年1月15日（木）の期間で日臨技事業の説明をオンデマンド研修として受講していただきました。

集合型研修は、令和7年1月18日（土）～19日

（日）に東京都中央区にあるL stay & grow 晴海において実施しました。

当日は、横地会長の、「『医療DX』その先に…これからの検査室に必要なことは何か」の講話から始まり、続いて第1期生の広島県臨床検査技師会の藤井珠美常務理事と栃木県臨床検査技師会の田村勝幸副会長から講話をいただき、夕方からはナイトセミナーとして、横地会長と参加者との活発な意見交換が行われました。

研修では、MTS (Management by Target Setting) ステップ表を用いた目標設定から達成までのシナリオ作成技法として個人ワークとグループワークを実施しました。1日目はMTSステップ表の説明、個人ワークでステップ表を作成し、続いてグループに分かれて「会員にとって魅力ある日臨技・地臨技とする方法」のテーマのもと、それぞれ独自性のある目標を設定し、実現のためのストーリーを作成していただきました。テーマを考えグループワークを行い、2日目に代表者によるプレゼンテーションをしていただきました。プレゼン内容から、「会長賞」「第1期生賞」を設け表彰しました。

今後も新たな人材育成事業に取り組んでいきたいと考えております。ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

令和6年度 地域ニューリーダー育成研修会 プログラム

オンデマンド研修

●日臨技の各事業説明コンテンツを視聴

- | | |
|------------------------|----------|
| 1. 総務・広報・システム・渉外の概要 | (竹浦副会長) |
| 2. 学会・認定の概要 | (西浦副会長) |
| 3. 学術・教育研修全般・生涯教育の概要 | (山寺副会長) |
| 4. 国際・出版・認定 | (小松専務理事) |
| 5. 精度管理・学会・支部 | (神山常務理事) |
| 6. 精度保証・政策渉外 | (益田常務理事) |
| 7. チーム医療/タスク・臨地実習・検体採取 | (桑原執行理事) |
| 8. 教育研修・人材育成 | (宮原執行理事) |
| 9. 組織運営・事務運営 | (深澤専務理事) |
| 10. 広報・災害・システム | (直田執行理事) |
| 11. 財務・会計・共済 | (原田執行理事) |

集合型研修1日目：令和7年1月18日（土）

●横地会長講話

●第1期生からの講話

(広島県臨床検査技師会 常務理事 藤井珠美氏)
(栃木県臨床検査技師会 副会長 田村勝幸氏)

●講義：MTS (Management by Target Setting) ステップ表について

●講習：MTS (Management by Target Setting) ステップ表

1. 個人単位ステップ表作成・発表
2. グループ内テーマの検討・ステップ表作成

●ナイトセミナー

集合型研修2日目：令和7年1月19日（日）

●グループワークステップ表発表会

●MTS振り返り

●修了証書授与

研修会場の様子



令和6年度地域ニューリーダー育成研修会に参加して



会長賞：Gグループ



第一期生賞：Dグループ

伊藤 葵（東京都）

令和6年度地域ニューリーダー育成研修会に参加させていただきました。事前研修では、日臨技事業の9つのコンテンツの動画視聴と課題提出があり、普段触れることのなかった職能団体としての役割や課題について学び、日臨技・地臨技の今後を考えるきっかけとなりました。集合型研修は2日間にわたって行われ、1日目には横地会長による医療DXに関する講演や、第1期生の方の貴重な経験談を伺うことができました。

また、MTS (Management by Target Setting) ステップ表の活用方法を学び、実際に個人でステップ表を作成した後、グループでテーマを決めてステップ表やプレゼンテーションの作成に取り組みました。私たちのチーム「日臨技アプリ制作委員会」は、若手技師の学会・研修会への参加率が低い現状に着目し、会員の参加率を30%増加させることを目標に掲げました。具体的には、ワーキンググループを立ち上げ、アプリ開発から周知、普及までを5年間で実現する計画を策定しました。自分達が実際にワーキンググループの一員になったつもりで進める中で、様々な課題に直面しましたが、幅広い世代や地域の方々がそれぞれの経験や知識を共有することで解決策を見出し、全員が納得できるプレゼンテーションを完成させることができました。この達成感は大きく、チームワークの重要性を再認識するとともに、この企画が本当に始動するのではないかという期待で胸が膨らみました。研修を通じて得た知識や経験を今後の業務や活動に活かし、フィードバックしていきたいと思います。

また、次世代の日臨技や地臨技を担う方々と交流できたことは大きな財産となり、今後も一つ一つの出会いやつながりを大切にしていきたいと強く感じました。この場をお借りして、企画運営をしてくださった日臨技関係者の皆様、講師の先生方、Gグループの皆様、そしてすべての参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

井手 雄大（鹿児島県）

2025年1月18日、19日の2日間にわたり「令和6年度地域ニューリーダー育成研修会」が開催されました。日本全国から各地域の代表者が集まり、日臨技・地臨技の活性化のためにどうしたらいいかグループワークを行いました。

まず、参加にあたっては事前研修として、動画を視聴し日臨技の担当理事の方から日臨技の事業に関する説明や予算、学会運営、広報活動など多岐にわたる説明がありました。それらを踏まえたうえで日臨技や地臨技を活性化させるためにどのようにしたら良いか、PowerPointでの課題提出がありました。これは、技師会活動について深く考える良い機会となったと思います。

現地の研修会では、まず横地会長の講演があり、現在の医療を取り巻く状況を踏まえて、これからの検査室に必要とされることは何かといった内容のお話があり、これからの臨床検査技師のあり方や働き方について考える機会となりました。その後第1期生の講話もあり、地臨技での取り組みの紹介や人材育成についてのお話がありました。午後からはMTS (Management by Target Setting) ステップ表の説明と実践がありました。我々のグループは「小中学生のになりたい職業No1」というテーマでMTSステップ表を作成しました。小中学生の人気No1の職業になるような計画を立案し、臨床検査技師の母数を増加させて、いい人材を確保し技師会ひいては臨床検査技師を盛り上げていこうという目標を立てて、ステップ表の作成に取りかかりました。グループの6人で様々な意見を出し合い、最終的には臨床検査技師がノーベル賞を受賞して人気職業にするという非常に壮大な計画を立てていきました。突拍子もない計画だったかもしれませんが、現状を打破するためには、固定概念を打ち破ることも必要かと思っています。とても面白い議論ができたと思っています。

最後になりますが、このような有意義な機会を与えていただきました関係者の皆様、Dグループの皆様（下村さん・竹林さん・虫本さん・阿部さん・堀田さん）ありがとうございました。

全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第4回

東京都

今回、新宿タカシマヤ・JR・高速バスターミナルに挟まれた会場となったため、開始前から終了まで行列が絶えることないほど多くの方に参加していただきました。

血管年齢測定、ストレスチェック測定、骨健康測定には、男女問わず興味を持っていただき、日ごろの生活習慣など見直すきっかけになったと思います。また、乳がん視触診モデルによる触診体験は性別や年齢によっては必要ないと思われる方もいましたが、セルフチェックの重要性やまれに男性でも発症することがあることなどを説明すると体験する方が増えました。年齢に関わらず、しこりがどのようなものなのか体験してもらい早期発見の重要性を知っていただけたと思います。家族連れの方にはお子さんに白衣着用をしながらイムノクロマト検査を体験して病気を見つける仕事ということで将来のキャリアプランの1つとして考えてもらえるようアピールができたと思います。

今後、臨床検査技師の役割をアピールすることや、都民の皆さんの健康増進のため積極的に関わることの重要性を強く感じることができたイベントとなりました。

(東京都臨床検査技師会 山崎 貴之)



滋賀県

滋賀県臨床検査技師会では令和6年10月20日、イオンモール草津にて「検査と健康展」を開催しました。大型

ショッピングモールでの開催ということで、家族連れの集客を求め、風船・お菓子のプレゼントや献血ちゃん着ぐるみなど子ども向けの企画を用意し、親子で参加してもらいました。また、今年度は2名の臨床検査専門医の先生方に来ていただき、事前にチラシに「健診結果を持って、気になる事を聞いてみよう」と記載し配付しました。「健診結果を持参して来てくださる方はいるのだろうか？」と不安に思っておりましたが、持参して来られた方が数名おられて、また、アンケート結果で「先生に不安だったことを質問して答えてもらって安心できました。」と記入されていて、非常に嬉しく思いました。

顕微鏡体験では、がん細胞や白血病細胞、細菌を観察していただき丁寧な説明でわかりやすかったと好評でした。超音波検査体験ではフルーツゼリーにプローブを当てて画像を見てもらい、超音波検査の原理を理解してもらいました。他にも簡易貧血検査や体成分分析を体験してもらったり、乳がん触診体験では多くの方に検診を受けることの大切さをお伝えしました。

本年も多くの県民の皆様にご参加いただき、盛況に終わることができました。

次年度も県民の皆様は臨床検査と健康について考えていただく機会を提供できればと思います。

(滋賀県臨床検査技師会 谷 和也)



福井県

今年度は尿一般、便中ヘモグロビン、AED体験、その他、骨密度測定及びモニター付き顕微鏡を使用し、血液、病理部門など共同での鏡顕コーナーを設けることとしました。また、展示パネルには臨床検査に関連したポスターの掲示と合わせて、能登地震の福井県臨床検査技師会からの災害支援活動のポスターの掲示も行いました。会場であるショッピングモールの中での勧誘の規制や開催周知、事前案内等が不十分であったこともあり、昨年度と比べて来場者が減少したものと考えています。

しかし、その中でも簡便に計測可能な骨密度測定コーナーは体験される方が多く、100名近くとほぼ来場者の大半が計測されて帰られる状況でありましたし、AED操作の体験コーナーも老若男女問わず興味を持たれて真剣に話を聞かれる様子が伺えました。次年度は今回の反省点から集客方法を検討、強化して“魅



京都府

今年は、前年と同じイオンモール京都桂川のイオンホールで開催しました。前年は好立地であったはずが参加者数が伸び悩み、今年度こそはと近隣自治体や地域の医師会に後援をいただき、また地元のラジオにも出演し、臨床検査技師を前面に出し、広報に全力を注ぎました。おかげさまで非常に多くの参加者に恵まれ、盛会裏に終了することができました。臨床検査体験では、頸動脈エコー、心電図、ABI、自己血糖測定、物忘れプログラムを、臨床検査おしごと体験



では、エコー検査、疑似尿検査、顕微鏡観察を実施しました。臨床検査を通して市民と繋がり、臨床検査技師の知名度向上に寄与できたのではないかと思います。

(京都府臨床検査技師会 園田 真之)

大阪府

今年は世界一の広さを誇る仁徳天皇陵古墳や中世に栄えた海外貿易港（旧堺港）があり、千利休、与謝野晶子の出身地でもあり、鉄砲鍛冶屋で知られる堺市のイオンモール堺鉄砲町で全国「検査と健康展」を開催致しました。今年は昨年とは違う広報活動をしました。これまでは会場周辺に新聞折込みをしていましたが、今年は中高校生に来てもらおうと大阪府下の国公立私学の高校約260校にチラシを配り、それから地元出身の委員の伝手で堺市の自治会約400に回覧板を回してもらいました。また、南海電鉄にお願いして最寄り駅の七道駅にB2サイズのポスターを1週間掲示してもらいました。当日は天候にも恵まれたこともあって開店と同時に府民の方が「回覧板で見たわ!」と会場に来られました。会場の入口付近で「健康展やってますー!」、「臨床検査が体験できますよー!」と呼掛けしたりして、262名の府民の方が来場されました。その内、血管年齢測定179名、骨密度測定132名、フルーツインゼリーを使った超音波検査体験96名、マイクロピペット操作体験45名、疑似尿を使った尿検査体験76名、血液塗抹標本を使っての顕微鏡検査体験174名、進路相談6名、フォトスポット13名、延べ721名が体験されました。検査体験をされた府民の方には、初めて臨床検査技師の存在を知った方もおられたり、超音波画像や顕微鏡画像を見ては、「ようこんなん分かるなー!」、「大したもんやなあ!」と感心されていました。疑似尿を使って尿試験紙の色調変化を体験してもらうコーナーでは小学生が不思議そうに試験紙を見つめていたり、ピペットを操作してもらって微量のサンプルを分注する体験コーナーでは、ずっとピペット持って楽しそうに操作するお子さんも居られました。

進路相談コーナーでは将来、臨床検査技師になろうかどうかと悩んでいる中高生に当会の増田会長が自ら臨床検査技師の仕事の素晴らしさ、面白み、重要性、社会的役割などを懇切丁寧に説明し、中には1時間近く相談される生徒さんもありました。そうそう、高校職員の方も来られ、少しは臨床検査をアピールできたかなと思いました。

当日、ボランティアに参加していただいたスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

大臨技は次回も少し思考を凝らした全国「検査と健康展」を企画しますので、是非是非、来年もお越しください。

(大阪府臨床検査技師会 喜舎場 智之)

兵庫県

地域の方と一緒に健康について考える、地域の方に臨床検査技師という職種、仕事内容を知ってもらうための企画として、健康チェック（頸動脈エコー、体組成測定、血管年齢測定、Hb測定、骨密度測定）、子ども向け企画（「りんしょけんさぎし」になろう!）、広報ブースを実施しました。

健康チェックでは、リピーターも多く、頸動脈エコー258名、体組成測定100名、血管年齢測定210名、Hb測定271名、骨密度測定244名が参加し、大盛況でした。また、子ども向け企画では、臨床検査技師の仕事を広めるために、顕微鏡体験、エコー体験を行い、健康に関するクイズを実施し、参加者は150名と大盛況でした。さらに、臨床検査技師について説明を行うブース、子宮頸がん検診受診の啓発ブース（発表ブース）も設け、地域の方々に健康について考えていただく機会となりました。

(兵庫県臨床検査技師会 澤村 暢・澁谷 雪子)

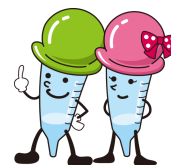
奈良県

令和6年度日臨技主催、全国「検査と健康展」を地方会場の一つとして、イオンモール奈良登美ヶ丘で開催しました。当日は天候に恵まれず曇りでしたが多くの方の来場があり、会場はおおいに賑わい開催ができました。各検査コーナーには行列ができませんでしたが、絶え間なく来場者があった印象です。

血管年齢と位相差顕微鏡は人気がありました。位相差顕微鏡は来場された方の血糖検査で使った血液を鏡検しましたので、多少の待ち時間はありましたが、来てくださった方々は検査を受けられ、結果を真剣に聞きかかていました。臨床検査技師という職業を広く知っていただき、健康に興味を持っていただけの良い機会になったのではないかと思います。

(奈良県臨床検査技師会 梅木 佑亮)

ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございます!



都道府県技師会 各地での取り組み(栃木県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、地元のコミュニティFMに出演し臨床検査技師の仕事をPRした栃木県技師会の取り組みについて紹介いたします。

臨床検査技師の仕事をラジオでPR

一般社団法人 栃木県臨床検査技師会
副会長 谷中 弘一

栃木県臨床検査技師会（栃臨技）では、11月11日の「臨床検査の日」に合わせて、宇都宮コミュニティFM ミヤラジ（FM77.3MHz）の番組『行列が出来る！街かど相談室』に出演しました。医療や介護、福祉、生活支援をテーマに「聞いたことはあるけど、よく知らない」、「興味はあるけど、どうしたら良いか分からない」といった素朴な疑問に、専門家が分かりやすく解説していくことが、この番組の趣旨となります。宇都宮市医師会から話をいただき毎年開催しています。1ヶ月を1クールとし、「臨床検査技師」をテーマに第1回：臨床検査技師の地域保健活動、第2回：精度管理、第3回：臨床検査技師の仕事とこれから、第4回：検査についての全4回を栃木県臨床検査技師会の理事が出演し、情報提供をさせていただきました。

第1回目は、臨床検査技師の地域保健活動として、「検査と健康展」を開催するため事前告知をしました。実施日時、場所の案内や臨床検査体験、健康チェック体験の内容などの説明をしました。後半は、県内の高校生の進路選定の一助になっている「高校生向け臨床検査技師講座」について説明しました。高校生が実際の検査業務を体験できる貴重な体験講座として内容説明や人気の検査体験について、また体験した高校生の感想などを報告しました。

出演者の皆様から沢山の質問があり、和気藹々とした受け答えを通して臨床検査技師に親しみを感じてもらえたのではないかと思います。

第2回目は、基準値と精度管理では、『基準値』は、健診や人間ドックの結果の評価するものさしとして、誰もが気になる内容であると思われ、検査基準値の意味を説明し、健常人95%の方の数値が『基準値範囲』としているため、外れても必ずしも問題があるわけではないことの話をさせていただきました。基準値に関する質問等も受け、疑問の絶えない内容であったのではないかと思います。精度の高い検査値の担保のために「精度管理」は欠かせなく、『内部精度管理』と『外部精度管理』を用いることで、日々各検査室は検査精度の保証を行っていることを説明しました。また、臨床検査技師を目指した理由やこれから目指そうとする方に向けた助言を問われ、より専門性が求められる医療現場では自身の興味を追求していける場であり、AIが普及しても臨床検査技師の仕事は減衰しない、興味を持った進路に迷わずに進んでいって欲しいと伝えました。



第1回目：（左から）宇都宮医師会松澤さん、黒川理事、佐々木理事



第2回目：桐生理事（中央）、高浪理事（右）



第3回目：谷中副会長（中央左）、日高会長（中央右）



第4回目：秋山理事（中央）、篠江理事（右）

第3回目は、臨床検査技師と災害支援活動をテーマに令和6年1月1日に起きた「能登半島沖地震」での臨床検査技師の災害支援活動について話しをしました。エコノミー症候群患者発見のためのDVT検診、COVID-19/インフルエンザのPOCT検査、検体採取、弾性ストッキングの装着指導及び活動の際の苦労話など、日本臨床検査技師会を中心とした支援活動を活動報告に基づいた説明をしました。現在、栃臨技としても栃木県との「災害支援協定」を結ぶべく話し合いを進めて準備しています。栃臨技として積極的に様々な活動に参加し、臨床検査技師の認知度向上に繋げられればと思います。後半は、臨床検査技師の今昔として、昔は用手法での検査が主流で職人と呼ばれる仕事が多くありましたが、今は機器を管理してオペレーターのような役割を担っていること。検査全体のデータを読めることがより求められること。また、タスクシフト/シェアにより、業務拡大のチャンスと捉え、検査室から出て、病院職員の一人として働いていく姿勢が必要で、働き方が今後変わるであろうということを伝えました。

第4回目は、検査についてでは、前半が血液型検査、後半が尿検査でした。血液型検査に関しては、ABO式とRh式の関係、日本と諸外国での血液型の占有率の違い、血液型占いに信憑性はあるのか等についてお話させていただきました。尿検査に関しては、尿の由来やその作られ方、病院での検査の流れ、検査でどのようなことが分かるのか等についてお話させていただきました。どちらもリスナーが興味を持ちそうな話題を提供できたと感じております。

番組最後には、検査の重要性や地域医療への貢献等、臨床検査技師の活動についてのPRをさせていただきました。この放送を機に、臨床検査に関心を持った方が1人でも多く増えることを期待したいと思います。

高知大学医学部附属病院検査部公式YouTubeチャンネルにて日臨技制作動画を公開しています！



YouTubeチャンネルの概要

今後、臨床検査に関する情報提供コンテンツを追加していく予定

この度、高知大学医学部附属病院検査部（以下「当部」）が運営する公式YouTubeチャンネルにおいて、日臨技が制作した職業紹介動画（以下「日臨技PR動画」）を公開しました。

この日臨技PR動画は、日臨技より正式な許諾をいただいたうえで、2024年12月22日から当部チャンネルで公開しました。記事執筆時点の2025年1月31日で、100回を超える視聴回数を計測しています。

現在、当部チャンネルでは、日臨技PR動画の公開以外に、当部外来採血室の患者呼び出し状況をライブ配信しています。スマートフォンなどでどこでも呼び出し状況を確認できる点が特徴で、患者さんやご家族に採血呼び出しまでの待ち時間を有効活用いただくことにより、少しでも快適に当院を受診いただくための試みです。

ライブ配信は、先行事例である岡山大学病院、東京科学大学病院、岐阜大学医学部附属病院などの取り組みを参考に運用構築しました。

ライブ配信はスタンドアローン型ライブストリーミング装置を用い、配信開始や停止はスマートホームデバイスを活用し自動化しています。また、採血室待合



当部外来採血室にて掲示している掲示物、YouTubeチャンネルへのリンク（QRコード）をスマートフォンなどで読み取っていただき、チャンネルにアクセスしていただく仕様としています。

当部外来採血室の患者呼び出し状況のライブ配信コンテンツ。最新の呼び出し番号、在の採血待ち人数、採血呼び出しまでの平均待ち時間などを確認できる。視聴者によるコメント入力も可能としている。



に掲示物を掲示し、配信に簡単にアクセスいただけるよう配慮しています。

日本は労働人口の減少局面にあり、医療業界を志す人材をいかに確保し育成していくかが大きな課題と考えております。この日臨技PR動画は、臨床検査技師の職務内容を網羅的に紹介し、多くの方に臨床検査の重要性を知っていただく機会となるコンテンツです。

当部のライブ配信をきっかけに、患者さんやご家族が日臨技PR動画を視聴してくださる流れが定着すれば、臨床検査及び臨床検査技師の認知向上にわずかでも貢献できるのではないかと期待しています。今後は、これらのコンテンツに加え、臨床検査への理解を促す多様なコンテンツを提供していきたいと考えています。

（編集後記）1月の賀詞交換会では、各界から232名と多くの参加をいただき、盛会に開催されました。参加して当会活動に行政他団体との、協力・協調体制の強みを実感しました。

今号では、各地で開催された「検査と健康展」や臨床検査技師の認知度向上に向けた各県の取り組みなどが報告され、今後これらの活動が浸透してくるものと期待します。地域ニューリーダー育成研修会では、回数を重ね各県で活躍してくれる人材が育ってきて頼もしい限りです。（谷中）